

## 福祉の形 理想を追い求め模索



“ごはん”を通じて見守り育てる  
子ども食堂

### 県社協が取り組む子どもの 笑顔はぐくみプロジェクト

あなたは滋賀県の福祉についてどれくらい知っているだろうか。私たちは滋賀県の福祉を推進する県社協に取材を行った。「よくわからない」と思われがちな福祉について、より多くの人が知り、福祉について今一度考えるべきだと感じた。

県社協では「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」という取り組みを行っている。このプロジェクトでは、子ども食堂、生きづらさを抱える子ども達を支えるフリースペース、児童養護施設で暮らす子ども達への仕事体験や企業との交流の場の提供の3つの事業を展開しており、それぞれが福祉に関する様々なニーズに合わせて活動している。

その中の1つである子ども食堂は、“ごはん”を通じて地域ぐるみで子どもを見守り育てていく活動だ。このような取り組みを通して、子どもの「居場所づくり」に力を入れている。これらが目指すのは、世代の垣根を越えて皆が気軽に利用できるような居場所である。福祉という言葉は、専門家さえ説明に困ってしまうほど意味の広い概念だ。その福祉の在り方の一つに、このプロジェクトのような形もあるのではないだろうか。

### 福祉に隠れる葛藤と二面性

「一般的に福祉の対象とされる方は、果たして支援されたいと思ってやってくるだろうか」。県社協の遠城さんが何気なく放った言葉だった。「居場所づくり」に力を入れているこのプロジェクトであるが、子ども食堂のように誰でも気軽に足を運ぶことができる場所にするによって本当に支援の必要な人が参加しやすくなることもあるという。つまり、敢えてターゲットを絞らないことがその要支援者にとって参加しやすい環境になることもあるということだ。また、様々な理由によって保護者等からの適切な保護を受けられない人に向けた支援活動も存在する。このような場合、本人が社会性や心理面に問題を抱えている場合が多い。そのため、本人の立場を考慮し守秘義務を重視すべき可能性もある。一概に福祉について広くたくさんの人に知ってもらうことや垣根のない利便性ばかりを求めることが、正しいとは言えない。福祉にはこのような二面性がありその事業に携わる関係者は、この葛藤に日々思考を巡らせているのである。

### 若い世代へ求める 「正しい理解」と「共感」

福祉を見つめる立場にはさまざまな視点がある。福祉を生業に生活する人、ボランティアに参加する学生、福祉と全く接点のない若者、それぞれに違った福祉の考え方があ。若い人の世の中を良くしたいという気持ちや態度が、被支援者にとって良い影響を与える場合もある。このような取り組みに対する「共感」や「興味」が、自身の動機づけになるのである。

「教科書を通して頭で理解するだけではなく、実際に興味を持った分野を体験してみたい」と皆が口をそろえて主張した。その上で、福祉に対する「正しい理解」をしてほしいと語った。



フリースペースでは暖かな  
居場所づくりを目指す

### 取材先

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会

滋賀県社会福祉協議会では、だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる人間的共感に根ざした共生社会地域福祉を目指しています。県社協はその実現のため、不断の地域福祉実践を行います。



### 取材者

びわこ学院大学  
教育福祉学部子ども学科 原園秋久  
滋賀大学大学院  
データサイエンス研究科 河本剛

Shiga SDGs Studiosの活動に参加、教育と福祉に興味を持つ。「伝えたい思いや考えを発信したい」と、今回の取材内容を選択。